

8.4%

身体拘束率

測定値の定義・計算方法

Process

分子：分母の内、物理的身体拘束を実施した患者の延べ数

分母：入院患者延べ数

活動のきっかけ

身体抑制は、人権侵害、QOLの低下を招く行為であるが安易に実施してはならない。しかし、対象者への事故防止・安全のためにやむを得ず抑制しなければならない場合がある。実施する抑制に妥当性があるかを日々確認し、できる限り抑制をおこなわず医療を実践するため、多職種間による患者情報の共有やリスク評価をおこない医療ケアの質向上につなげる必要がある。そのための重要な活動である事を院内活動にて周知していく。

改善活動部門

- 看護管理室
- 各病棟

考察

上手くいったこと	課題と感じたこと
<ul style="list-style-type: none">2026年度の診療報酬改定における身体的拘束の削減が前情報等としてあったため、国の方針や身体的拘束削減の目的を再度職員へ周知できる年度であり看護記録を含めた体制を再考することができた	<ul style="list-style-type: none">スタッフ個々の能力や経験年数、対象者となる患者・利用者の行動や精神的側面によって身体的拘束を解除できたり、実施したりと一貫性が担保できない状況にあった。そのため、個々の対応ではなくチームとして身体的拘束削減に向けた関りがより重要と感じた